

今を未来に

【学級閉鎖の危機乗り越える】

先週の金曜日の事です。1クラスで3分の1にあたるお子様が吐き気・下痢、発熱などで欠席し、学級閉鎖にすべきかどうか悩むという状況がありました。校医さんと相談をして、金曜日でもあるので、給食後下校として、土日に外出を控えてもらって、様子を見させていただこうという事になりました。幸いにも月曜日・火曜日は病欠が1名となり、学級閉鎖の危機は一旦おさまりました。緊急連絡であったにも関わらず、保護者の皆様のご理解・ご協力があったからこそ、いい方向へ向かったのだと思っています。ありがとうございました。



ただ、油断は禁物です。潜伏期間もありますし、この異常な暖かさに慣れた体に12月らしい寒さが戻ってきた時には、いっきに風邪・インフルエンザ・感染性胃腸炎（今年は新型ノロウイルス）が流行する恐れがあるからです。学校では、その時に備えて、子どもたちに手洗い・うがいと教室の換気を呼びかけています。また、濡れタオルを干して湿度を保つ工夫もしています。お家でも、同様の対策を徹底してください。また、給食時に使うハンカチは必ず別の物を持たせてください。

ただ、油断は禁物です。潜伏期間もありますし、この異常な暖かさに慣れた体に12月らしい寒さが戻ってきた時には、いっきに風邪・インフルエンザ・感染性胃腸炎（今年は新型ノロウイルス）が流行する恐れがあるからです。学校では、その時に備えて、子どもたちに手洗い・うがいと教室の換気を呼びかけています。また、濡れタオルを干して湿度を保つ工夫もしています。お家でも、同様の対策を徹底してください。また、給食時に使うハンカチは必ず別の物を持たせてください。

【そんな中でご迷惑をおかけしました。】

対象となったクラスの保護者の皆様には、子どもたちの感染を防ぐためにと、急な対応をお願いしました。その中で、仕事の都合で携帯メールが見られない保護者の方への対応が遅くなり、ご迷惑とご心配をおかけすることになりました。また、学童保育所をご利用いただいているお子様の対応をどうするかも悩みました。校長の私は学級閉鎖と同様の対応をすべきと考え、学童保育所の利用を控えていただくようお願いの連絡をしました。しかし、今までは学級閉鎖になった時は学童保育所で待機となっていたようで、昨年度も3年生の学級で学級閉鎖があった時には、学童保育所で待機させてもらっていた子がいたようです。その事に気づいていなかった私の確認不足です。

今回のことから、感染症の疑いがある欠席者が多い学級や学年で「閉鎖」と判断した時には、以下のように対応をお願いしたいと思います。

- ① 学級・学年閉鎖などを行う時は、給食後帰りとなります。保護者の方への連絡は10時頃にすぐメールを送ります。詳しくは、閉鎖のお知らせのたよりを子どもたちに配布します。
- ② 学童保育所へ行っているお子様は、学校待機を基本とします。お子様は13:30頃に学校を出ることになりますので、その時までに対応できなくなった学童保育所を利用されている保護者の方は学校へ連絡をください。連絡をいただいたお子様のみ他のお子様といっしょに集団下校をします。

- ③ ②以外のお子様で、帰宅時刻を考えた時、対応が間に合わないというご家庭もあるか
と思います。その場合は学校へ連絡をください。その場合も学校待機とします。
- ④ ②・③のケースで学校待機となっているお子様のお迎えは、15:30までをお願い
します。緊急下校の場合、メール配信後2時間以内にお迎えをお願いしていることに合
わせます。この時刻を過ぎてもお迎えのない場合のみ学校から直接連絡をさせていただ
きます。あらかじめ、15:30を過ぎるとわかっている場合は、保護者の方から学校
へ連絡をください。
- ⑤ お仕事の都合でメールがすぐ見られないという保護者の方は、その旨担任まで知らせ
て下さい。学校待機と決めておくか、相談しておきたいと思います。

このように体制を決めておき、また不都合が出てきた時には、相談をしながら、考えて
いきたいと思います。時々お子様に「今日は学校休んでいる子多くなかった？」と尋ねて
いただき、お子様の学級の様子をつかんでおいていただけると、助かります。

【そんな中で、楽しいことがありました。】

この日、私はまきの木台と小牧南へ帰る5人の子と一緒に
歩いて帰りました。子どもたちは学校を出る前から、いろん
な話をしてくれます。恐竜博士はいろいろな恐竜を紹介して
くれます。背の高さが何mで体長は何mで・・・と、その詳
しいこと。子どもの「好き！」って大切やなあと思いながら、



話を聞いていました。そうしていると、ちょっとした話の隙間に、駆け足の話をしてく
る子もいました。「1周目1分15秒で、2周目も1分15秒で、3
周目も1分15秒で、・・・今日は新記録の5分台で走れた。」「私も
今日新記録やった。」「僕は4分どんだけやった。」「そうそう、〇〇君
すごく早いもの。」「そう、僕は走るのが得意。」今年度は、決まった
時間でどれだけ走れるかだけでなく、決まった距離をどれだけのタイ
ムで走れるかという記録もとっているのです。自分の記録がよくなった
こと＝自分に力がついたことと、子どもたちは受け取りやすかったみ
たいです。そうこうしていると、みんなよりちょっと早く歩いて、家の陰に隠れる・みつ
かる、それを何度も繰り返し楽しんでいる子もいました。そして、「もうお母さんは帰っ
ているかなあ。」「まだ、帰ってないかも。」という子もいたので、「もし、おうちの人が帰っ
てなければ、校長先生と学校へ戻ろうね。」そんな話をしていると、あっという間にまきの
木台でした。でも、40分ぐらいかかっていた。



そして、一人の子のお家に着いた時、おうちの方が見えなかったのです。お手紙を書いて、
ポストに入れて、ランドセルは私が持って、いっしょに学校まで歩いて帰りました。「家に
帰るといつもは何をするの?」「お母さんの仕事は…で…」「さっき見たカラスの大群がい
なくなっただね。」「カラスは寝ぐらに帰ったのかなあ?」「校長先生、スズメもいなくなった。」
強風に逆らいながら飛んでいる鳥を見て、そんな話をしながら学校へ戻りました。

子どもたちといっぱいお話ができて、おうちの方には迷惑をかけながらも、私にとって
は楽しい時間でした。ランドセルは意外に重く感じ、こんなランドセルをしっかりとしょ
って学校へ来てくれるこの子たちに、感謝の気持ちが湧き上がってきました。